

第 16 回分子磁性国際会議

9 月 1 日から 5 日にかけて、ブラジルのリオデジャネイロで開催された ICMM2018 に参加しました。成田空港からヒューストンを経由しリオデジャネイロまで行く航路で、片道 30 時間超の長旅でしたが、酔い止めや着替え、アイマスクに電子書籍や映画が大量に入った iPad など、万全の準備を期したせいか、何とかやり過ごすことができました。心強いことに、ヒューストンでは筑波大学の大塩寛紀先生と東北大学の宮坂等先生にお会いすることができ、会場までご一緒させていただきました。リオデジャネイロ国際空港から会場となる Windsor Marapendi Hotel まではシャトルバスで 40 分ほどかかり、ゴツゴツした岩場がそこら中にあるリオデジャネイロの地形を車窓から楽しむことができました。会場となるホテルはリゾート地にあり、目の前の海では多くの人々が海水浴を楽しんでいました。元指導教員である山下正廣先生が ICMM に参加しており、私がリオデジャネイロに居ることに驚かれているようでした。また、かつて山下研究室にいたナイジェリア人学生の David も参加しており、久ぶりの再会に会話が弾みました。1 日目のオープニングでは、Chair の Miguel A. Novak 先生の挨拶のあと、バルセロナ自治大学の Jaume Viciano 先生による有機ラジカル分子膜を用いたデバイスに関する講演がありました。レセプションパーティーではおいしい肉料理に加え、音楽とダンスによる舞台が披露され、会場が大きく盛り上がりました。今回の ICMM では、分子磁性のみならず、無機シリコン中の量子ビット間の相関や、Skyrmion の輸送など、普段耳にすることのない内容を聴くことができました。また、分子磁性の主要なトピックの 1 つである単分子磁石において、液体窒素温度以上の温度域で動作するものが報告され、この分野の可能性を再確認しました。今回、鐘ヶ江さんの研究である Ni(II) 錯体のスピנקロスオーバー現象についてポスター発表を行いました。ロシアの研究グループの方々と白熱した議論を行うことができ、良い刺激になりました。エクスカージョンでは、キリスト像で有名なコルコバードの丘へ行きました。ふもとから赤いケーブルカーで山頂付近まで登り、エレベーターとエスカレーターでキリスト像のある頂上まで行きました。巨大なキリスト像はもちろん、丘から見える湾の景色もきれいでした。1 時間ほどすると体が凍えるほど寒くなってきたので、キリスト像近くにあるレストランで、David と一緒にフライドポテトを食べつつビールを飲みながら 1 時間ほど暖をとりました。帰りのケーブルカーに乗るころには辺りがすっかり暗くなり、美しくライトアップされたリオの街をみることができました。学会期間中に日本は非常に強い台風に見舞われ(台風 21 号)、関西空港が甚大な被害を受けたことをホテルの BBC ニュースで見ましたが、今回の航路では関西空港を使わなかったため、難を逃れることができました。

(堀井洋司)



View from the hill of Corcovado.